

2022年3月期 第3四半期決算 カンファレンスコール資料

2022年1月28日

日本ライフライン株式会社

2022年3月期 第3四半期 決算概要

常務取締役管理本部長

山田 健二

2022年3月期 3Q累計 連結業績ハイライト

- ・ 売上高は、新型コロナの感染者数減少による症例数回復を受け、対前年同期で増収
- ・ 営業利益は、自社製品の販売が好調に推移する一方、薬剤溶出型冠動脈ステントの商品評価損等を計上したほか、研究開発費や営業関連費用等の増加により、ほぼ前年同期並み
- ・ 四半期純利益は、前年同四半期に特別損失の計上があったため、当期は大幅増益

(百万円)	2021/3期 3Q累計 実績	2022/3期 3Q累計 実績	対前年同期
売上高	38,328	39,009	+1.8%
売上総利益	21,335	21,756	+2.0%
売上総利益率	55.7%	55.8%	+0.1pt
営業利益	7,511	7,504	△0.1%
営業利益率	19.6%	19.2%	△0.4pt
親会社株主に帰属する 四半期純利益	248	5,522	+2,126.2%
四半期純利益率	0.6%	14.2%	+13.6pt

新型コロナの影響が緩和し、症例数が回復

- ・ 9月以降、新規感染者数が急速に減少し、AF(心房細動)アブレーション症例数は2Qを底として大幅に増加

自社製品が大きく寄与

- ・ EP/ABLや外科関連の自社製品が好調に推移し、自社製品比率は51.9%に上昇（前年同期49.3%）

複数の新商品が順調に立ち上がる

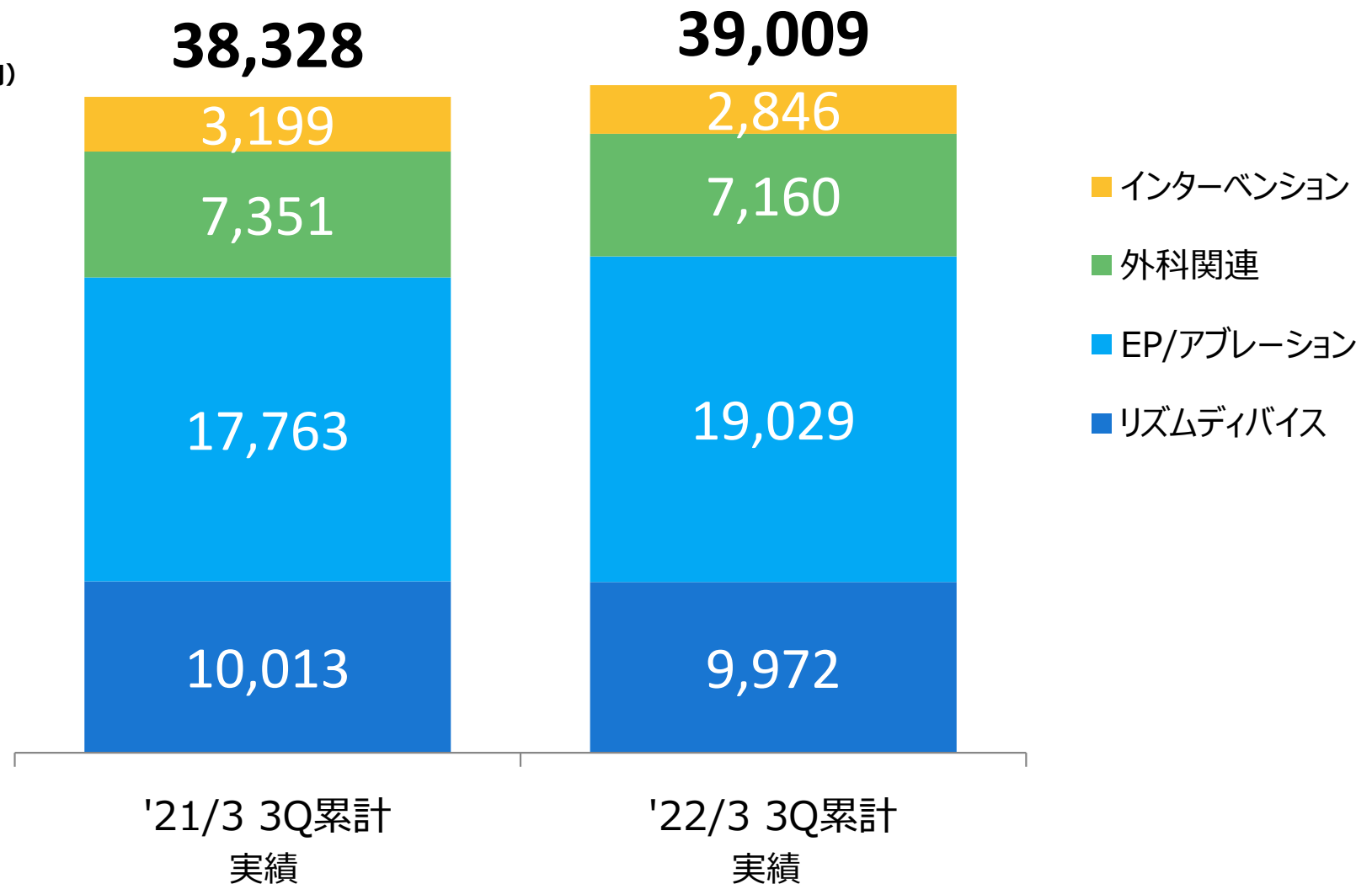
- ・ 外科関連：腹部用ステントグラフト「Alto」
- ・ インターベンション：胃・十二指腸用ステント「Jentlly Neo Duodenal Stent」

2022年3月期 3Q累計 品目別売上高

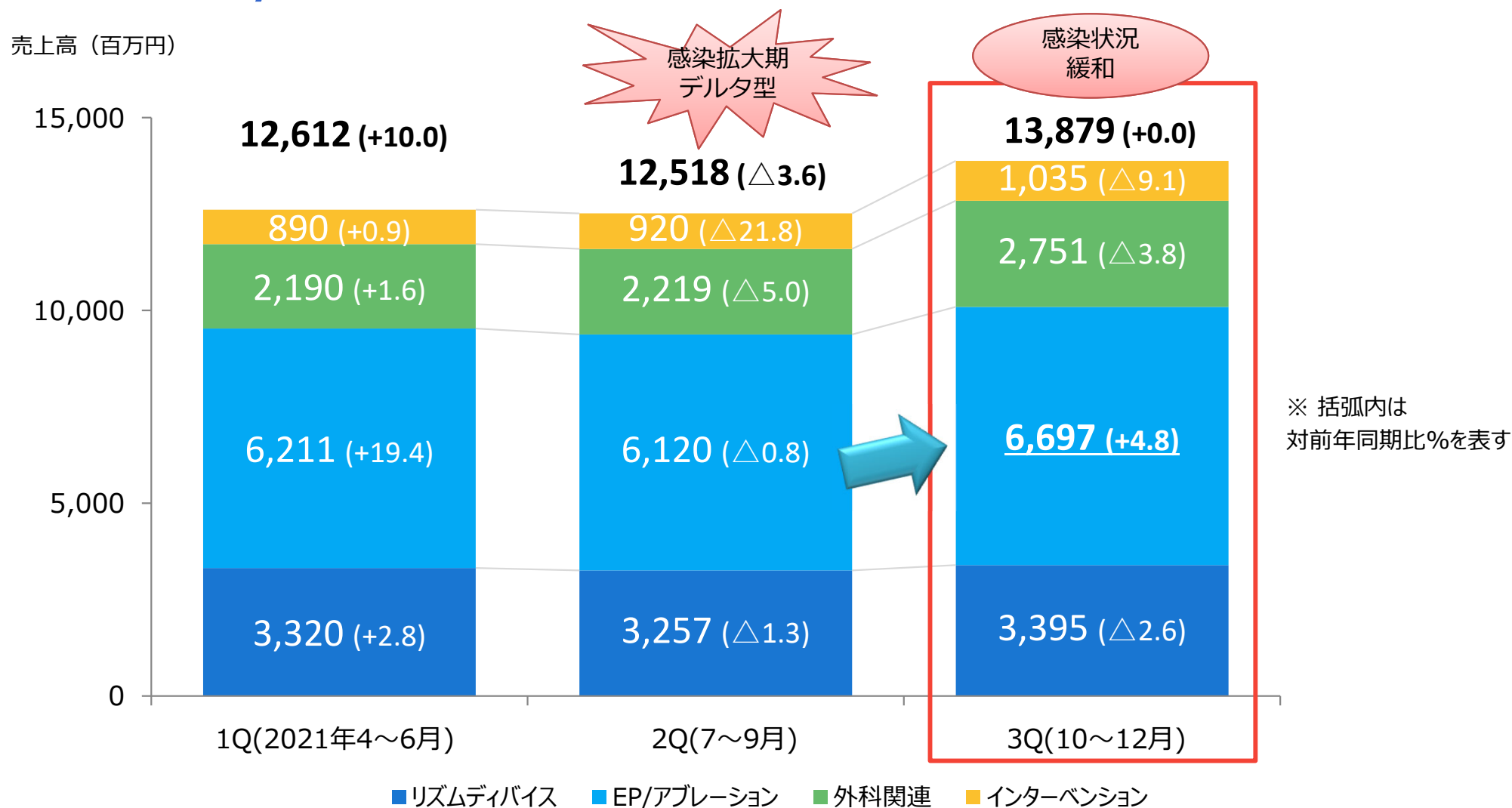
対前年同期
+1.8%

販売終了品の影響除く +3.6%

(百万円)



- ・ 3Qでコロナ感染者数の急速な減少を背景に、AFのアブレーション治療の症例数は大幅に回復
- ・ 主力のEP/ABLの売上高は対前年同期で再び成長路線へ



リズムデバイス 対前年同期 △0.4%

- ペースメーカ関連は、9月以降の症例数は減少傾向から回復し、売上高は前年同期並み
- ICD関連は、一般的なICDは堅調に推移したものの、S-ICD及びCRT-Dは競合製品等の影響もあり、売上高は微減

EP/アブレーション 対前年同期 +7.1%

- AFアブレーション治療の症例数が回復し、心腔内除細動カテーテル「BeeAT」や食道温モニタリングカテーテル「Esophastar」が伸長
- 2021年8月に上市した内視鏡レーザーアブレーションカテーテルの次世代品「HeartLight X3」が計画を上回り進捗
- 自社製品のステーラブルシース「Leftee」は簡便な操作性が評価され、大きく伸長

外科関連 対前年同期 $\Delta 2.6\%$

販売終了品の影響除く $+2.9\%$

- ・ 自社製品のオープントグRAFT「FROZENIX」及び人工血管「J-Graft」シリーズはコロナによる影響が少なく好調に推移
- ・ 血液浄化事業の譲渡による影響($\Delta 394$ 百万円)あり

インターベンション 対前年同期 $\Delta 11.0\%$

販売終了品の影響除く $\Delta 3.0\%$

- ・ PI関連は、症例数の回復が遅れており、ガイドワイヤー、バルーンカテーテルの販売が低調。薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro」の販売も計画を下回る
- ・ 前期に販売を終了した貫通カテーテルの影響($\Delta 264$ 百万円)あり
- ・ 消化器関連は、肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針、大腸ステントが引き続き伸長。新製品の胃・十二指腸ステントも計画を上回り進捗

(資料) 品目別売上高 (実績 対前年同期)

(百万円)	2021/3月期		2022/3月期				備考
	3Q累計 実績		3Q累計 実績				
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
ペースメーカー関連	4,607	12.0%	4,586	11.8%	△ 21	△0.5%	
ICD関連	5,225	13.6%	5,134	13.2%	△ 90	△1.7%	
その他 * ¹	180	0.5%	252	0.6%	71	39.4%	AED含む
リズムデバイス 計	10,013	26.1%	9,972	25.6%	△ 40	△0.4%	
EPカテーテル * ¹	12,901	33.7%	13,889	35.6%	988	7.7%	心腔内除細動カテーテル含む
ABLカテーテル * ¹	790	2.1%	932	2.4%	141	17.9%	内視鏡レーザーアブレーションカテーテル含む
その他 * ¹	4,071	10.6%	4,208	10.8%	136	3.3%	高周波心房中隔穿刺針含む
EP/ABL 計	17,763	46.3%	19,029	48.8%	1,266	7.1%	
人工血管関連 * ¹	6,680	17.4%	6,895	17.7%	214	3.2%	ステントグラフト（腹部）、オープンステントグラフト含む
その他	671	1.8%	264	0.7%	△ 405	△60.4%	血液浄化関連含む
外科関連 計	7,351	19.2%	7,160	18.4%	△ 191	△2.6%	
PI関連 * ¹	3,036	7.9%	2,534	6.5%	△ 501	△16.5%	貫通用カテーテル、薬剤溶出型冠動脈ステント、心房中隔欠損閉鎖器具含む
消化器関連 * ¹	162	0.4%	311	0.8%	148	91.5%	大腸ステント、肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針含む
インターベンション 計	3,199	8.3%	2,846	7.3%	△ 352	△11.0%	
合計	38,328	100.0%	39,009	100.0%	681	1.8%	

*¹ 自社製品含む。

(資料) 連結損益計算書 (実績 対前年同期)

(百万円)	2021/3月期		2022/3月期			
	3Q累計 実績		3Q累計 実績			
	金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率
売上高	38,328	100.0%	39,009	100.0%	681	1.8%
売上原価	16,992	44.3%	17,253	44.2%	260	1.5%
売上総利益	21,335	55.7%	21,756	55.8%	421	2.0%
販管費及び一般管理費	13,823	36.1%	14,252	36.5%	428	3.1%
営業利益	7,511	19.6%	7,504	19.2%	△ 7	△0.1%
営業外収益	779	2.0%	240	0.6%	△ 539	△69.1%
営業外費用	1,043	2.7%	235	0.6%	△ 808	△77.5%
経常利益	7,248	18.9%	7,509	19.3%	261	3.6%
特別利益	2	0.0%	15	0.0%	13	593.7%
特別損失	5,735	15.0%	8	0.0%	△ 5,727	△99.9%
税引前利益	1,514	4.0%	7,517	19.3%	6,002	396.3%
税金費用	1,266	3.3%	1,994	5.1%	727	57.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	248	0.6%	5,522	14.2%	5,274	2126.2%

(資料) 品目別売上高 (実績 対計画)

(百万円)	2022/3月期		2022/3月期		備考
	3Q累計 実績		通期 計画		
	金額	構成比	金額	構成比	
ペースメーカー関連	4,586	11.8%	6,205	11.7%	
ICD関連	5,134	13.2%	7,085	13.4%	
その他 * ¹	252	0.6%	290	0.5%	AED含む
リズムデバイス 計	9,972	25.6%	13,581	25.6%	
EPカテーテル * ¹	13,889	35.6%	18,577	35.1%	心腔内除細動カテーテル含む
ABLカテーテル * ¹	932	2.4%	1,428	2.7%	内視鏡レーザーアブレーションカテーテル含む
その他 * ¹	4,208	10.8%	5,729	10.8%	高周波心房中隔穿刺針含む
EP/ABL 計	19,029	48.8%	25,735	48.6%	
人工血管関連 * ¹	6,895	17.7%	9,350	17.6%	ステントグラフト（腹部）、オープンスtentグラフト含む
その他	264	0.7%	0	0.0%	血液浄化関連含む
外科関連 計	7,160	18.4%	9,350	17.6%	
PI関連 * ¹	2,534	6.5%	3,785	7.1%	貫通用カテーテル、薬剤溶出型冠動脈stent、心房中隔欠損閉鎖器具含む
消化器関連 * ¹	311	0.8%	526	1.0%	大腸stent、肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針含む
インターベンション 計	2,846	7.3%	4,311	8.1%	
合計	39,009	100.0%	52,979	100.0%	

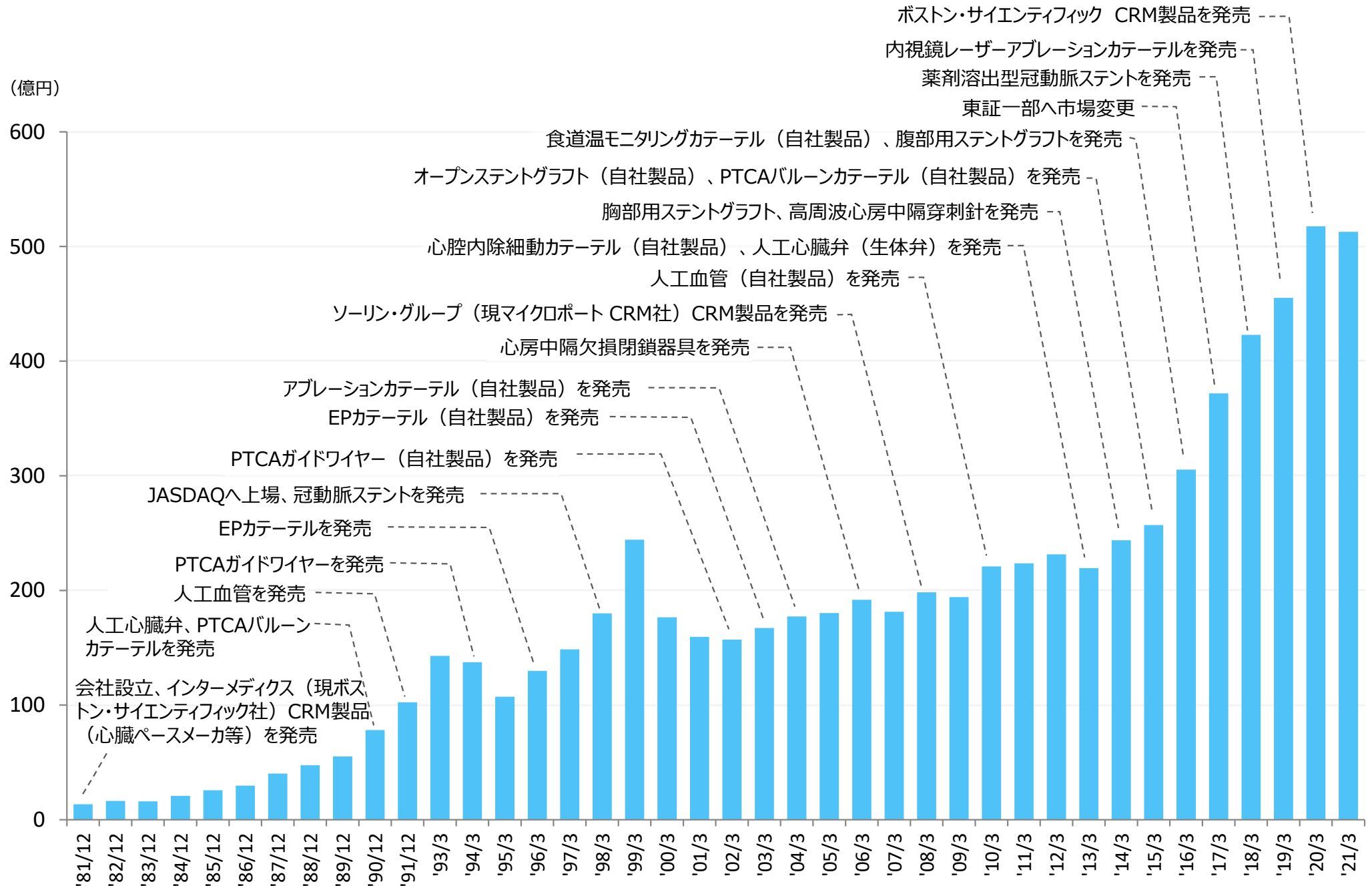
*¹ 自社製品含む。

(資料) 連結損益計算書 (実績 対計画)

(百万円)	2022/3月期		2022/3月期	
	3Q累計 実績		通期 計画	
	金額	構成比	金額	構成比
売上高	39,009	100.0%	52,979	100.0%
売上原価	17,253	44.2%	22,522	42.5%
売上総利益	21,756	55.8%	30,456	57.5%
販管費及び一般管理費	14,252	36.5%	19,831	37.4%
営業利益	7,504	19.2%	10,625	20.1%
営業外収益	240	0.6%	274	0.5%
営業外費用	235	0.6%	217	0.4%
経常利益	7,509	19.3%	10,682	20.2%
特別利益	15	0.0%	0	0.0%
特別損失	8	0.0%	0	0.0%
税引前利益	7,517	19.3%	10,682	20.2%
税金費用	1,994	5.1%	3,115	5.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	5,522	14.2%	7,567	14.3%

会社概要

商 号	日本ライフライン株式会社
代 表 者	代表取締役社長 鈴木啓介
本 社	東京都品川区東品川2-2-20 天王洲オーシャンスクエア
設 立	1981年2月6日
株 式	東証一部上場
証 券 コ ー ド	7575
事 業 内 容	医療用機器の製造、販売、輸出および輸入販売
資 本 金	2,115百万円
決 算 期	3月31日
従 業 員 数	連結1,204名/単体996名（2021年9月30日 現在）
事 業 所	営業拠点48ヶ所、羽田ロジスティックスセンター、関西ロジスティックスセンター、研究開発統括部、戸田ファクトリー、小山ファクトリー、市原ファクトリー、天王洲ACCADEMIA（研修センター）（2021年9月30日 現在）
連 結 子 会 社	SYNEXMED（HONG KONG）LTD.、JLL Shenzhen Co., Ltd.（中国語社名：心宜医疗器械（深圳）有限公司）、JLL Malaysia Sdn.Bhd.



当社は創業以来、不整脈や心筋梗塞等の心疾患を治療するための医療器具を扱っており、事業領域はリズムデバイス、EP/アブレーション、外科関連、インターベンションの4つに大別されます。

リズムデバイス

不整脈（心臓の拍動が正常よりも遅くなる、または早くなる状態）を治療する、主に体内植込み型の器具を扱います。

リズムデバイス

心臓ペースメーカ
ICD/S-ICD
CRT-P
CRT-D
AED

外科関連

本来の機能が失われてしまった血管を、外科手術により人工の器官に置き換え、治療するための器具を扱います。

EP/アブレーション

EPカテーテル
アブレーションカテーテル
心腔内除細動カテーテル
高周波心房中隔穿刺針
内視鏡レーザーアブレーション
カテーテル

心臓血管 領域

外科関連

人工血管
オープンス Tent グラフト
ステントグラフト

EP/アブレーション

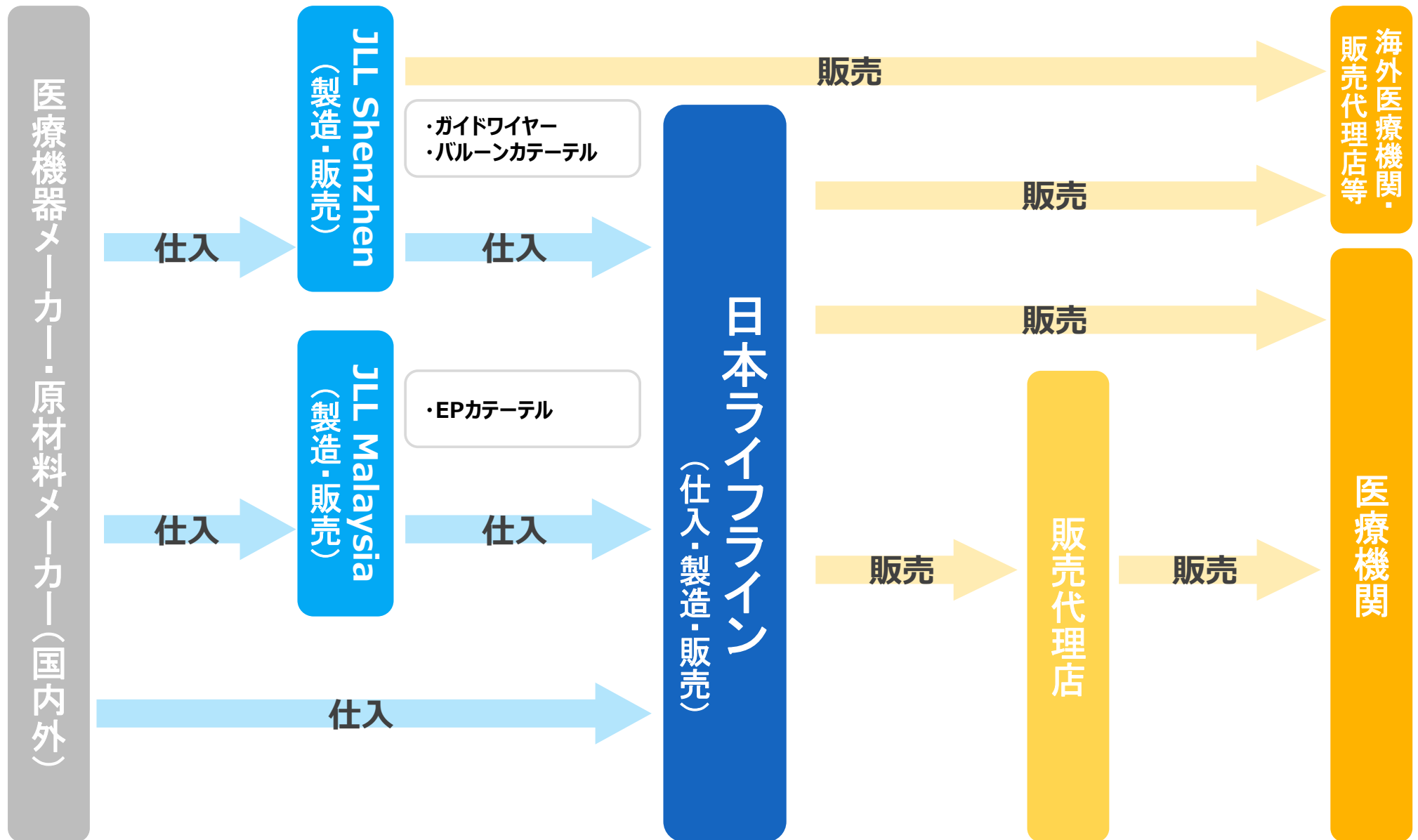
不整脈の検査や治療を行うための、ディスプレイ式電極のついたカテーテル（細い管）を扱います。

インターベンション

ガイドワイヤー
バルーンカテーテル
心房中隔欠損閉鎖器具
薬剤溶出型冠動脈ステント
大腸ステント
肝癌治療用
ラジオ波焼灼電極針

インターベンション

カテーテル（細い管）を皮膚を通して血管に挿入し、心筋梗塞等の治療を行う器具を扱います。外科手術に比べ、患者様への負担が小さい治療法です。



心臓ペースメーカー

(Boston Scientific社製)



心臓の拍動が正常よりも遅くなる不整脈（徐脈）に対して、人工的に電気刺激を与えることで拍動を保ちます。

心臓の拍動が異常に早まる不整脈（頻脈）のうち、致死性の不整脈である心室細動の発生を検知し、電気ショックを与えることで、拍動を正常な状態に戻します。

ICD（植込み型除細動器）

(Boston Scientific社製)



CRT-P（両心室心臓ペースメーカー）

(Boston Scientific社製)



重症心不全に対して、心臓の左右両方の心室に電気刺激を与えることで、心臓の同期不全を整えポンプ機能を改善します。

S-ICD（完全皮下植込み型除細動器）

(Boston Scientific社製)



従来のICDは静脈を介し心臓内にリードを留置するのに対し、S-ICDは全てのシステムを皮下に植込むことで血管内や心臓へ異物が留置されません。

CRT-D（除細動機能付き両心室ペースメーカー）

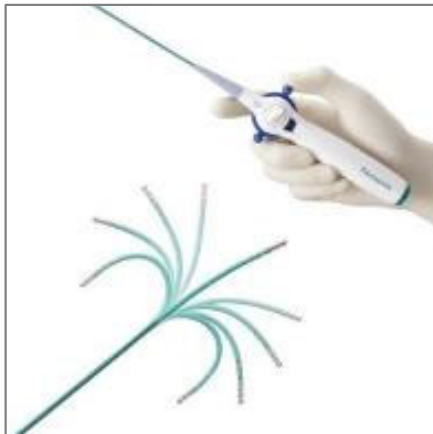
(Boston Scientific社製)



両心室心臓ペースメーカーの機能に加え除細動機能も有しており、致死性の不整脈の発生時は、本体から電気刺激を心臓内に与え治療を行います。

アブレーションカテーテル

(自社製品)



頻脈の原因となる心臓内の異常な電気刺激の経路を、カテーテル先端部の電極から流す高周波電流で焼き切ることで治療します。

不整脈の診断や治療方法の適応を判断するための検査に用いられます。カテーテル先端に電極がついており、心臓内の電位を測定したり、不整脈を誘発させることで原因を特定します。

EP（電気生理用）カテーテル

(自社製品)



心腔内除細動カテーテル

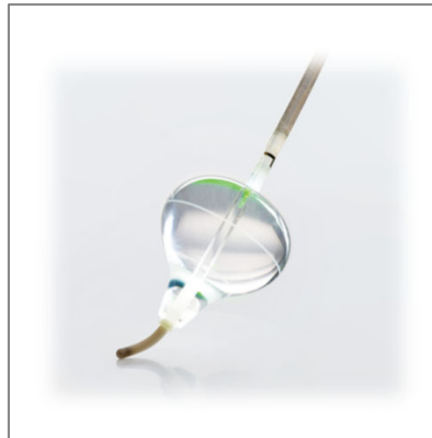
(自社製品)



アブレーション治療の際に発生する心房細動に対し、心腔内で除細動を行うことにより、低侵襲に心房細動を停止させます。またEPカテーテルとしての診断機能も合わせ持っています。

内視鏡レーザーアブレーションカテーテル

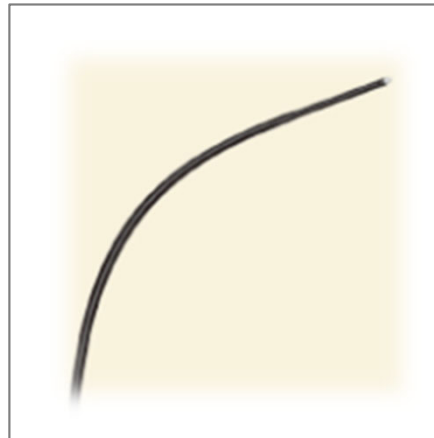
(CardioFocus社製)



バルーン内部からレーザーを照射し、頻脈の原因となる部位を焼き切り治療します。カテーテル内部の内視鏡により、正確な留置および焼灼が可能です。

高周波心房中隔穿刺針

(BAYLIS MEDICAL社製)



アブレーション治療などの際に、左右の心房の間にある壁（心房中隔）に、カテーテルを通すための穴を高周波により開ける際に使用します。

人工血管

(自社製品)



開胸手術により動脈瘤などで痛んだ血管を切り取り、人工血管に置き換え治療します。

大動脈に挿入し拡張することにより血管に固定します。片側の吻合が不要なため、開胸手術を行うものの低侵襲に大動脈瘤の治療を行います。

オープンスtentグラフト

(自社製品)



stentグラフト

(ENDOLOGIX社製)



外科手術を行うことなく、足の付け根の血管からカテーテルを通じて、治療部位に留置し大動脈瘤を治療します。

バルーンカテーテル

(自社製品)



心臓の筋肉に酸素や栄養を送る血管（冠動脈）が詰まることが原因となる心筋梗塞や狭心症の治療に用いられます。血管の詰まった部分で風船（バルーン）を拡張させ、再度血流を確保します。

バルーンカテーテルを血管の詰まった部分に導くために用いられます。ガイドワイヤーを血管の詰まった部分の先まで通過させ、これに沿ってバルーンカテーテルを進めます。

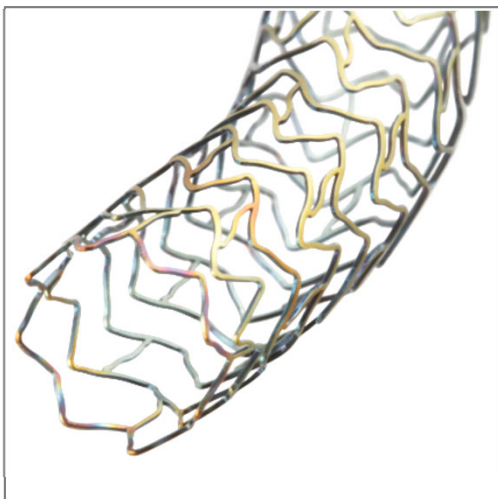
ガイドワイヤー

(自社製品)



薬剤溶出型冠動脈ステント

(BIOTRONIK社製)



血管の詰まった部分を風船（バルーン）で拡張させた後に留置し、再び詰まるのを防ぎます。また塗布された薬剤も再発防止に効果があります。

先天的に心臓の左右の心房を隔てる壁に穴が開いている疾患（心房中隔欠損症）を、外科手術を行うことなくカテーテルを用いて閉鎖栓という円盤状の器具で塞ぎ治療します。

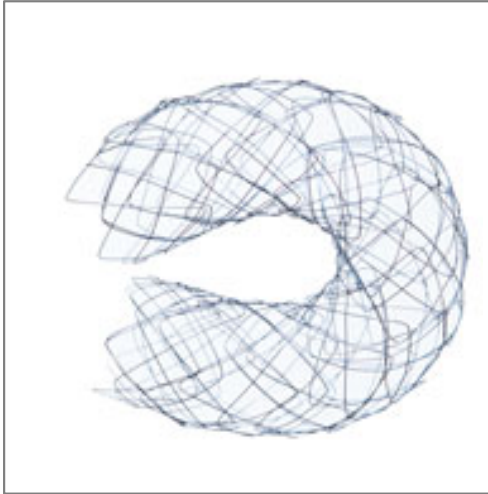
心房中隔欠損閉鎖器具

(Occlutech社製)



大腸用ステント

(自社製品)



癌により閉塞した大腸を押し広げるために用いられます。細いガイドワイヤーで閉塞部を通過させた後、これに沿ってステント留置器具を通過させステントを展開します。症状を大きく緩和させ、QOLの向上に繋がります。

胃・十二指腸用ステント

(自社製品)



癌により閉塞した胃・十二指腸を押し広げるために用いられます。ガイドワイヤーを用いて閉塞部を通過させた後、ステントを展開し閉塞部位を押し広げ、狭窄を改善します。

肝癌治療用ラジオ波焼灼システム

(自社製品)



超音波(エコー)やCTで観察しながら針状の電極を経皮的に肝癌の病変組織へ挿入し、電極周囲にラジオ波による熱を発生させ病変を焼灼し治療します。

研究開発

研究開発統括部 (埼玉県戸田市)

Medical Technology Park North Square



(2018/04~)

中核工場

戸田ファクトリー (埼玉県戸田市)

Medical Technology Park South Square



(2012/01~)

量産対応

小山ファクトリー (栃木県小山市)



(2014/10~)

血管・OSGの開発・生産

市原ファクトリー (千葉県市原市)



(2011/01~)

海外工場 ①

深圳工場 (中国深圳市)

JLL Shenzhen Co., Ltd.



(2010/10~)

海外工場 ②

マレーシア工場 (マレーシアペナン州)

JLL Malaysia Sdn.Bhd.



(2020/06~)

ご注意事項

本資料の記載内容のうち、歴史的事実でない事項は、当社の将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。特に、商品や製品の導入に係る、治験および薬事承認に係る事項、また発売時期につきましては、過去の経験や入手可能な情報から得られた当社の予測であります。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本資料記載の見通しと異なる可能性がありますので、これらの見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社
経営企画室

TEL:03-6711-5214

E-Mail:ir@jll.co.jp

URL:<https://www.jll.co.jp>